

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮称)片岡製作所システム工場

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	
Q 建築物の環境品質								2.4
Q1 室内環境						0.31	-	2.5
1 音環境					2.4	0.15	-	2.4
1.1 室内騒音レベル					3.0	0.40	3.0	-
1.2 遮音					2.6	0.40	-	-
1 開口部遮音性能					3.0	0.60	3.0	-
2 界壁遮音性能					2.0	0.40	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	-	3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-	3.0	-
1.3 吸音					1.0	0.20	3.0	-
2 温熱環境					2.6	0.35	-	2.6
2.1 室温制御					3.0	0.50	-	-
1 室温					3.0	0.38	3.0	-
2 外皮性能					3.0	0.25	3.0	-
3 ゾーン別制御性					3.0	0.38	-	-
2.2 湿度制御					1.0	0.20	3.0	-
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0	-
3 光・視環境					1.9	0.25	-	1.9
3.1 昼光利用					1.0	0.30	-	-
1 昼光率	●自然	A(全国版準用)			1.0	1.00	3.0	-
2 方位別開口					-	-	-	-
3 昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)			-	-	-	-
3.2 グレア対策					1.0	0.30	-	-
1 昼光制御	●自然	B(推奨内容)			1.0	1.00	3.0	-
3.3 照度				平均照度 E=990.70lx	4.0	0.15	3.0	-
3.4 照明制御					3.0	0.25	3.0	-
4 空気質環境					3.1	0.25	-	3.1
4.1 発生源対策					3.0	0.50	-	-
1 化学汚染物質					3.0	1.00	3.0	-
4.2 換気					3.3	0.30	-	-
1 換気量					3.0	0.33	3.0	-
2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)		開口面積/床面積=0.06	4.0	0.33	3.0	-
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.33	3.0	-
4.3 運用管理					3.0	0.20	-	-
1 CO ₂ の監視					3.0	0.50	-	-
2 喫煙の制御					3.0	0.50	-	-
Q2 サービス性能					-	0.30	-	2.7
1 機能性					2.3	0.40	-	2.3
1.1 機能性・使いやすさ					1.6	0.40	-	-
1 広さ・収納性					1.0	0.33	3.0	-
2 高度情報通信設備対応					1.0	0.33	3.0	-
3 パリアフリー計画	●大切	D(独自基準)			3.0	0.33	-	-
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)	●とも	C(独自加点)		敷地に緑を配置し、利用者がそれを感じられる窓の配置。	4.0	0.33	3.0	-
2 リフレッシュスペース				職員の利用できる食堂の整備	4.0	0.33	-	-
3 内装計画	●自然	D(独自基準)			1.0	0.33	-	-
1.3 維持管理					2.5	0.30	-	-
1 維持管理に配慮した設計					3.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保					2.0	0.50	-	-
2 耐用性・信頼性					2.7	0.30	-	2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80	-	-
2 免震・制震・制振性能					3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数					3.2	0.30	-	-
1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)			3.0	0.20	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.20	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.10	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.10	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				空調・給排水配管は全て耐用年数C以上を利用。	4.0	0.20	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-

2.4 信頼性					1.4	0.20			
1	空調・換気設備				1.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				1.0	0.20			
5	通信・情報設備				1.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.2	0.30			3.2
3.1 空間のゆとり					2.2	0.30			
1	階高のゆとり				1.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率=0.117	4.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり				2階の設計積載荷重 8000N/m ²	5.0	0.30	3.0		
3.3 設備の更新性					2.8	0.40			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		2.0	0.20			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.39			2.1
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも 自然	A'(全国版準用)		2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性									2.9
LR1 エネルギー					-	0.40			2.7
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI _m =0.86	4.4	0.03			4.4
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.12			3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEI _m] = 0.87	2.6	0.61			2.6
4 効率的運用					3.0	0.24			3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00			
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	0.50			
集合住宅の評価					3.0	-			
4.1	モニタリング				3.0	-			
4.2	運用管理体制				3.0	-			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			2.9
1 水資源保護					3.0	0.20			3.0
1.1 節水					3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減					3.0	0.60			3.0
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避					2.7	0.20			2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避					2.6	0.70			
1	消火剤				2.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33			
3	冷媒				3.0	0.33			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.0
1 地球温暖化への配慮				LCCO ₂ 排出率に基づくスコア換算	3.3	0.33			3.3
2 地域環境への配慮					3.0	0.33			3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制				3.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					2.8	0.33			2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	0.33			
2	振動				3.0	0.33			
3	悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				3.0	-			
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					2.3	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				2.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」ともに使う 「自然」:自然からつくる